

Comparison between non-contrast Magnetic Resonance Angiography (MRA) and Digital Subtraction Angiography (DSA), for the detectability of intratumoral aneurysms in renal angiomyolipoma (renal AML); a retrospective study about cases of renal AML

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2021-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 八代, 大佑 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002650

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2381 号

Comparison between non-contrast Magnetic Resonance Angiography (MRA) and Digital Subtraction Angiography (DSA), for the detectability of intratumoral aneurysms in renal angiomyolipoma (renal AML); a retrospective study about cases of renal AML

非造影 MR Angiography(非造影 MRA)及び Digital Subtraction Angiography(DSA)における腎動脈瘤検出能の比較 : 腎血管筋脂肪腫(AML)の症例に関する後ろ向き研究

八代 大佑 (やしろ だいすけ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、腎血管筋脂肪腫の症例において、非造影 MR Angiography(MRA)による腫瘍内動脈瘤の検出能を、Digital Subtraction Angiography (DSA) を参照基準として、初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。本論文の結果では、非造影 MRA は、腎血管筋脂肪腫の症例において、5mm 以上の大きさの動脈瘤に関して、感度 87%、特異度 100%と、十分な精度で検出できることが示されている。腎血管筋脂肪腫は頻度の高い腎良性腫瘍のうちの一つであるが、5mm 以上の大きさの動脈瘤は破裂の危険性が高く、長期にわたって慎重な経過観察が必要である。ただし、造影剤アレルギーや、喘息の既往などにより、造影剤の使用が難しい症例も多く存在する。本論文の結果からは、経過観察時において、非造影 MRA が、造影 CTA や造影 MRA の代替の検査となり得る可能性があると考えられ、そのような症例において、今後、造影剤による副作用のリスクを軽減させることが出来る可能性がある。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。